

我が国の児童合唱団の発展と放送文化：NHK放送児童合唱団の活動を通して

井上，博子

小田原短期大学保育学科：特任教授：音楽教育学、児童文化学

<https://doi.org/10.15017/5068310>

出版情報：総合文化学論輯. 16, pp.61-83, 2022-05-01. Japan Institute for Comprehensive Cultural Studies

バージョン：

権利関係：Copyright (C) 総合文化学研究所 all rights reserved. この論輯の全ての文章・画像の権利は、総合文化学研究所に属します。無断での使用・転載を禁止いたします。



我が国の児童合唱団の発展と放送文化 —NHK 放送児童合唱団の活動を通して— 井上 博子

I はじめに

1960 年代、我が国において全国各地に数多くの児童合唱団・少年少女合唱団が結成された。各地の児童合唱団は、「みんなのうた」をはじめとする音楽放送番組の中で児童合唱団が活躍する姿に刺激を受け、活性化していった。活動のモデルとなったのは主として放送局に所属する、いわゆる「放送児童合唱団」であった。

児童合唱活動の中で、求める声質や発声に関する研究は重視され、文部省が主導した研究が詳細に論じられるなど、児童発声に関する研究は盛んに行われた。¹⁾だが、放送児童合唱団をはじめとする数多くの児童合唱団が行ってきた活動の様子は明らかにされておらず、放送文化と関連付けた研究も行われていない。

放送児童合唱団は、NHK 放送局の開局直後、早い段階で創設された団体もあるが、多くは 1950 年代以降に結成されている。それらの放送児童合唱団は、放送番組だけではなく、定期演奏会や各種催しの中で演奏活動を行っている。各地域の NHK 放送局の役割の一つに地方文化の興隆があると考えたとき、NHK 放送児童合唱団がそこでどのような貢献を果たしてきたかについて検討することは意義があると考ええる。

本研究は、我が国の「児童合唱団／少年少女合唱団」と呼ばれる団体がどのように発展してきたかを放送文化との関わりを通して考察するものである。

II 研究方法

研究の方法としては、関連文献や資料を収集、整理し、先行文献を吟味する。児童合唱に関する基礎資料（歴史、成り立ち、背景）を精査・分析する。関係諸機関への問い合わせや関係の方々との面談による聞き取りを行う。できる限り多くの史資料を蒐集し、それら一つひとつの信頼性・妥当性を確認して論文執筆に活用する。収集した資料をもとに、考察する。

III 研究結果と考察

1. 童謡を歌う唱歌隊から合唱団へ

(1) 児童合唱団と呼ばれる団体の成立

大正期、童謡²⁾作曲者たちの作品は、作曲者自身の娘たちや、発表のために編成された団体によって発表されていた。日本童謡事典には「児童合唱団」の項目が設定されており、次のように記述されている。

【児童合唱団：童謡歌唱指導の組織】

(解説) 音楽には器楽と声楽というふたつの種類があるが、その後者に関して子ど

もたちを教導する組織、およびそこで結成された子どもをメンバーとする歌唱団体を〈児童合唱団〉という。明治期にはこのような組織は思い付く人もなく、童謡の生まれた大正期には、作曲家の本居長世が娘のみどり・貴美子・若葉を舞台に立たせて自身の作曲した童謡を歌わせたことはあったが、他家の子どもを集めて歌唱を教え歌手育成をするなどということとはなかった。しかし昭和初年代に入ると、中産階層の親たちのなかに習い事のひとつとしてピアノや歌唱をわが子に学ばせようとする人が増え、これを基盤として児童合唱団が生まれはじめ、その児童合唱団からラジオやレコードで活躍する少女童謡歌手が育つこととなったのである。³⁾

このような児童合唱団⁴⁾の指導者は、主として童謡の作曲者たちで、自らの作品を発表するために合唱団を編成した。代表的なものが以下である。結成年順に記述する。

①赤い鳥少女唱歌会

1918（大正7）年7月1日に鈴木三重吉は『赤い鳥』を創刊した。NHK取材班編『その時歴史が動いた30』⁵⁾には、鈴木三重吉が「我が子の誕生に際し子どもが歌うことができる歌がない」という現実に愕然とし、「ないならばつくろう」と思いついたのが『赤い鳥』発刊のきっかけであったと記述されている。翌1919（大正8）年6月22日、帝国劇場で「第1回赤い鳥音楽会」が開催された。その時に『赤い鳥』掲載の童謡から《かなりや》、《夏の鶯》、《あわて床屋》の3曲を披露したのが「赤い鳥少女唱歌会」であった。この音楽会では8、9名の少女たちがこれらの童謡を歌った。⁶⁾

この音楽会には要望が寄せられた。歌っている子どもたちの人数が少ないので、もっと増やして欲しいというものである。「人数が少なくも、40人くらいあって欲しかった」という意見もあった。⁷⁾このような要望を受けて、歌う子どもたちの人数が増え、合唱団が形づくられていったことが推測される。この少女たちについて鈴木は、「私どもが童謡を研究するについて貸与されている良家の小さな令嬢たち」と紹介している。⁸⁾翌1920（大正9）年に《かなりや》を含む数曲がニッポノホンから発売され、そこでも「赤い鳥少女唱歌会」が歌唱を担当している。

②小鳩会

1932（昭和7）年、「クロイツ少女会」として発足していた合唱団が「小鳩会」と改称された。⁹⁾河村光陽（1897～1946）が自身の作品を発表するための団体であった。光陽は、1931（昭和6）年《ほろほろ鳥》、1934（昭和9）年《グッドバイ》、1936（昭和11）年《うれしいひなまつり》、1937（昭和12）年《かもめの水兵さん》などを世に出し、千曲を超える童謡を作曲した。それらの作品は、長女の河村順子や小鳩会の歌唱によってレコード発表された。「小鳩会」は、1946（昭和21）年に、河村順子に引き継がれた。

③音羽ゆりかご会

1933（昭和8）年、海沼實によって創設された。海沼實は《お猿のかごや》、《里の

秋》、《みかんの花咲く丘》等を作曲した。レコード収録の際には「日蓄児童合唱団」や「コロムビアゆりかご会」などの名称を用いていた。戦時下は「音羽小国民合唱団」として活動していたこともあった。1943（昭和18）年に日本放送協会（NHK）が放送合唱団を公募した時に音羽ゆりかご会が「東京放送児童合唱団」として委嘱され、ラジオドラマ「鐘の鳴る丘」の主題歌《とんがり帽子》などを歌った。

戦後の童謡ブームの中で、中心的な役割を果たし、多くの少女童謡歌手を送り出した。昭和期の児童歌唱指導の組織の中でも広く名前が知られている。1971（昭和46）年に、海沼美智子が会の指導を受け継いだ。

④青い鳥児童合唱団

1935（昭和10）年頃、佐々木すぐる（1892～1966）が自宅で近隣の子ども達への歌唱指導を始め、「青い鳥児童合唱団」と名づけた。佐々木すぐるは、東京音楽学校卒業後、教員として働く傍ら、《青い鳥》、《じゃんけんぽん》、《月の沙漠》などを発表した。1924（大正13）年に自作を主軸とした楽譜叢書『青い鳥楽譜』を創刊、それを教材として全国の小学校を巡回して童謡教育運動を展開した。1928（昭和3）年には「青い鳥音楽園」を主宰していた。

1964（昭和39）年に弟子の岡崎清吾が「青い鳥児童合唱団」を改組して「クラウン少女合唱団」を発足させ、クラウン少女合唱団は現在もクラウンレコード専属合唱団として活動している。

⑤ひばり児童合唱団

1943（昭和18）年に、皆川和子によって設立された。初期は足柄上郡山北町で春和会児童合唱団として活動していた。1946（昭和21）年にNHKの学校放送に出演するようになり、「ひばり児童合唱団」と改名した。1950（昭和25）年に本部を横浜に移し、1951（昭和26）年にコロムビア専属、1962（昭和37）年にはキングレコード専属となった。2004（平成16）年に皆川おさむが代表に就任している。¹⁰⁾

童謡作曲家たちはレコード童謡を売り出すために自分自身の組織を必要とし、そして自分が指導する児童合唱団の中から童謡歌手を育てていった。¹¹⁾

童謡を歌うことを主としていた団体の中には、レコード会社の「レコード録音のため」のみに編成された児童合唱団も多かった。レコードの演奏者表記には「子どもの団体」であることを強調して命名したと推測される「〇〇児童合唱団」といった合唱団名を多く認めることができる。子どもらしさが伝わる親しみやすい名前をつけて表記したと考えられる。そのような合唱団として上記のほかにも、くるみ児童合唱団、さくら児童合唱団、若草児童合唱団などの団名が見受けられる。

児童合唱団の人気は高まり、その状況を長田は次のように記述している。

勝抜児童合唱団はすみれ会音楽園に、富士少国民合唱団は小鳩会に、音羽少国民合

唱団は音羽揺りかご会にというように、軍命令によった戦争中の変な児童合唱団名が、元の名称に戻っていきました。

白菊児童音楽園（川上幸平）、すみれ会音楽園（長妻完至）、さくら子供会（保田正）、ミチル児童合唱団（鈴木美致代）、みすず児童合唱団（百瀬三郎）、金の鈴こども会（長谷川堅二）、小鳩会（河村光陽→後に河村順子）、青い鳥児童合唱団（佐々木すぐる）、音羽揺りかご会（海沼実）などです。「（ ）内は主宰者名」。これらの合唱団の子どもたちはNHKの放送に協力し、緑陰子供会で歌い、品川駅頭に復員軍人を出迎えて合唱しました。子どもたちは目を輝かせてくったくなく歌い、その明るい歌声は、廃墟と欠乏の中で傷ついた当時の人びとの心を、どれほど慰め、生きる力の希望を与えたか、本当にはかりしれないものがありました。¹²⁾

子どもたちの歌声が人々を元気づけていった様子を窺い知ることができる。長田は更に次のように続けている。

美空ひばりの出現や、川田姉妹の圧倒的人気の刺激を受けて、わが子を童謡歌手にしたがる親が急に多くなりました。レコード各社やNHKが経営する児童合唱団は言うに及ばず、童謡作曲家や声楽家たちが主宰する市中の児童合唱団も一大ブームで、この児童合唱団も童謡を習いにくる子どもで超満員の異常な繁盛ぶりでした。¹³⁾

レコード会社各社は競ってスター童謡歌手のイメージにあった作品をつくり、童謡の人気は高まりを見せる。だが一方で、このような状況を良いとは思っていなかった識者もあった。谷川俊太郎は、童謡歌手の声を「黄色い声」と表現し、河合隼雄、阪田寛夫、池田直樹との対談の中で次のような発言をしている。

昭和の初年というのは、川田正子とか黄色い声の童謡歌手が流行った時代なんですね。そういうのもまたうちの父が嫌がって、絶対レコードなんか買わせなかったのも、僕は童謡もあまり聴いてないんです。¹⁴⁾

童謡歌手の在り方や発声法などには賛否があった。童謡を歌うために設立された児童合唱団は一時期絶大な人気を得ていたが、ほどなくブームは衰退し、童謡歌手たちは姿を消す。童謡歌手たちに代わって「子どもを対象とした歌」を演奏するようになったのが児童合唱団・少年少女合唱団であった。

上述のようにNHK放送局においては放送番組の中で児童合唱が必要になったとき、その活動を音羽ゆりかご会などの既存の児童合唱団に委嘱していた。「NHK放送児童合唱団」という名称は、NHK放送局に関わる演奏活動をする際に使用された。

その後、1951（昭和26）年の放送法施行に伴い、社団法人日本放送協会が解散して特

殊法人日本放送協会がその事業を継承した。

（２）NHK 東京児童合唱団の創立

NHK 東京放送局は、1924（大正 13）年に「社団法人東京放送局」として設立された。1952（昭和 27）年 3 月に「東京放送児童合唱団」が創立され、¹⁵⁾2003（平成 15）年 10 月に「NHK 東京児童合唱団」と改称された。日本放送協会の任意団体として児童音楽番組編成の際に活動している。

「みんなのうた」、「歌のメリーゴーラウンド」、「NHK 紅白歌合戦」、「NHK 全国学校音楽コンクール」などの NHK の音楽番組、教育番組に出演した。その活動は音楽を愛好する指導者や子どもたちに注目され、地方に少年少女合唱団が誕生するきっかけとなった。

NHK 東京放送児童合唱団が編成された当時のことを NHK の番組プロデューサーであった後藤田純生は次のように記述している。

この N 児が発足したのは、1952（昭和 27）年。当時の日本には、児童合唱団、少年少女合唱団の名称を持つ合唱団はなかった。（正確に書くなら、当時ひばり児童合唱団があったが、これは年少児による童謡合唱団で、若干その性格を異にしていた。）当初は、児童合唱研究会の名が付され、文字通り手さぐりの姿勢であった。

その生みの親は、当時の NHK 教育課長川上行蔵氏（現 NHK 顧問）、初代の指導者は故外山国彦氏である。その後の N 児の揺籃期は学校合唱の隆盛期と重なる。当時の N 児の主要な活動は、学校合唱の模範演奏であった。昭和 30 年代に入ってから指導者は、富田正教氏。昭和 36 年、NHK テレビ番組「みんなのうた」が、少年少女合唱を前面に押し出してから、N 児の周囲の状況が一変する。創立 10 周年とともに、「みんなのうた」に登場した N 児は、次第にその中心的存在となっていくのである。¹⁶⁾

「みんなのうた」の演奏などを通して児童合唱団の中心的存在となっていく NHK 東京放送児童合唱団の活動の様子が見て取れる。沿革を概観する。

①前身

1928（昭和 3）年「JOAK 聖歌隊」として発足、（隊員年齢は現在の高校 1、2 年生）1939（昭和 14）年に解散した。その時の指導者は吉原規（東京音楽大学）であった。

「東京放送児童合唱団」の名称は 1945（昭和 20）年から使われていたが、レコード会社系の児童合唱団がラジオ放送に出演する時だけ使用したので、何団体もがこの名称を使用していた。放送業界の発展と共に必要に迫られて「東京放送児童合唱団」が発足した。以来、指導者の交代を重ねながら現在に至っている。指導者には、外山国彦、古橋富士夫、栗山文昭、大谷研二、金田典子などが名前を連ねている。

②発展

1961（昭和 36）年に、「みんなのうた」の放送が開始され、番組の中で児童合唱団の

活躍が目に見えるようになった。最初の1年間は主に東京少年合唱隊、東京少年少女合唱隊などが出演していたが、2年目に入ってから他は他の団体も起用されるようになり、東京放送児童合唱団、西六郷少年少女合唱団なども出演するようになった。

1963（昭和38）年に「たのしいうた」の放送が開始された。「みんなのうた」においては関連映像やアニメーションと共に歌声のみが放送されることが多かったが、「たのしいうた」においては少年少女合唱団が歌っている姿を見せた。週1回、土曜日の僅か10分の番組であったが、毎月1団体の少年少女合唱団が1ヶ月4回分の出演を受け持ち、1回の放送の中で約3曲が歌われた。1年間の団体別出演回数を下記に示す。

- ・東京少年少女合唱隊：4月、7月
- ・西六郷少年少女合唱団：5月、9月、11月、3月
- ・フレール少年合唱団：6月
- ・東京放送児童合唱団：8月、10月、12月、2月
- ・ビクター少年合唱団：1月

「たのしいうた」は、2年間放送された。1964（昭和39）年には、「歌のメリーゴーランド」の放送が開始された。この番組のねらいは、「少年少女合唱の楽しさを全面に押し出す」ことであった。そのために「見ることで音楽が感じられるようにする」、「身体をある程度動かすことや映像全体を美しく構成する」ということに主眼がおかれた。また、できるだけ多くの少年少女合唱団の出演を求め、それぞれの個性の相違を紹介することも、ねらいの一つであった。このような放送文化の中で活躍する児童合唱団の活動に啓発され、憧れて地方の児童合唱団が活性化されていった。

2. NHK 東京放送児童合唱団と「合唱組曲《遠足》」

（1）阪田寛夫作詞・山本直純作曲「児童合唱と管弦楽のための組曲《遠足》」

1964（昭和39）年5月5日の子どもの日にNHKラジオで放送された阪田寛夫作詞・山本直純作曲「児童合唱と管弦楽のための組曲《遠足》」は、我が国の児童合唱文化転換のきっかけとなる革新性を持っていた。《遠足》¹⁷⁾は、児童合唱のためにも成人合唱と同様に「合唱組曲」という分野が必要であることを示した。¹⁸⁾

放送から19年後の1983（昭和58）年に楽譜が出版された。出版に際して山本直純は次のように記述している。

この組曲は、NHKの委嘱により、昭和39年に作曲したのですが、いらい、度重なる出版の依頼や誘いに応ぜず、今日まで温めてきた理由は、特定の合唱団のために作曲したものであること。再演を重ねながら、更に推敲を図り、いずれ一般の合唱団向きに直したかったこと。などによるものです。¹⁹⁾

「東京放送児童合唱団」が演奏することを前提として作曲された《遠足》は、高度な

演奏能力を必要とした。当時の一般的な少年少女合唱団が演奏するには技術的な困難があった。山本は、「いずれ一般の合唱団向きに直したい」という気持ちを持っていたが、この思いが実現されることはなかった。

（２）制作の経緯

《遠足》が発表された当時のことを、後藤田は次のように記述している。

合唱組曲《えんそく》が企画され、初めてラジオ放送されたのは、昭和 39 年 5 月であった。当時急速なテンポで充実しつつあった少年少女合唱界に、ひとつのエポックをつくるような作品をつくりたいと考えたのが発端である。通例の合唱曲と言えばピースの作品が多いが、ピース中心のレパートリーは、練習においても、演奏会や放送においても、平板単調になり、聴く方の印象も散漫になり易い。そこで、合唱団にとっては、“よしやるぞ”という目標になり聴く方にとっても、大きな感銘を受ける“大作”として、合唱組曲の決定版が求められたわけである。²⁰⁾

聴衆に、より強いメッセージを送るために組曲として構成し、組曲の持つ力に期待していたという、当時の状況を窺い知ることができる。山本は、「NHK 東京放送児童合唱団を指揮して」として、次の文章を寄せている。

童謡や唱歌から出発した日本の児童合唱のレベルがようやく、この高さに達し、富士山でいえば、五合目をすぎて、遂に胸つき八丁にさしかかった事を感じる。・・・（中略）・・・児童合唱に対する、一般の認識や、社会的配慮も未だ乏しい日本の現状で、音楽に懸ける情熱と、子供たちの純粋な夢と希望が、児童合唱の今日の水準を造り上げたと言えよう。²¹⁾

山本は 1962（昭和 37）年に、北海道放送 HBC の依頼で「合唱組曲《田園・わが愛》、作詞：寺山修司」を作曲している。²²⁾これは成人合唱のための作品であり、児童合唱を対象とした合唱組曲の作曲は、山本にとっても、《遠足》が初めてであった。言い換えれば、日本の児童合唱が合唱組曲を演奏できる水準に達し、準備が整ってきたということでもあった。また、作詞者である阪田寛夫は、1983（昭和 58）年版の前書きに下記の文章を寄せている。

20 年ほど前に、「遠足」を書いた頃のことを思うと、胸が熱くなります。まだその時代は、少年合唱のための本格的な組曲というものが、ほとんどありませんでした。いや、少年少女合唱団そのものの数も少なかったのです。

「みんなの歌」の時間を担当しておられた NHK の後藤田純生さんから、「子供の日」

の放送のために、「遠足」を主題に、組曲の歌詞を書くように言われたのは、まだ寒い季節だったのですが、私はまず一番に青梅の方へ自分が遠足に出かけたのを覚えています。そして外からみた遠足ではなくて、内側から湧きおこる遠足を、ここでは表現してみたいものだと思います。やがて、山本直純さんが作曲なさったばかりの前半の数曲を、東京放送児童合唱団の人々が歌われたのを初めて聴いた時のうれしさは、うまく言葉で語れません。

こんなに自在で、生き活きと、自分の音楽を主張する児童のための合唱曲を、それまで私は聴いたことがありませんでした。そして大人が代わりをつとめることは無理で、少年少女でなければ、そのいのちが伝えられない曲であることを、「N 児」の歌声は私に証明してくれたのでした。²³⁾

合唱組曲《遠足》の発表には多くの人々の思いが関わっていた。このようにして「児童合唱と管弦楽のための組曲《遠足》」は生まれた。

(3) 《遠足》演奏史

「児童合唱と管弦楽のための組曲《遠足》」は、「1. 光る」、「2. ズンタ・ズンタ!」、「3. おべんとう」、「4. 城あと」、「5. 山の上の合唱」、「6. 家路」の6曲によって構成されている。全曲を通して演奏された記録は、1964年の初演以来10回余である。児童合唱としては高度な演奏能力が求められる上、オーケストラ伴奏が設定されているので、上演に当たっては多くの下準備が必要とされる。従って演奏された回数は多いとは言えない。だが、記念大会や大がかりで華やかな演奏曲が必要とされるときに相応しい作品として選曲され、演奏されており、《城あと》のように単独で、1965（昭和40）年6月から7月にかけて「みんなのうた」で放送された曲もある。

《遠足》は、児童合唱の分野にも「合唱組曲」が必要であることを、NHK 東京放送児童合唱団の演奏を通して提示した。《遠足》をきっかけとして、1970年代から1980年代にかけて、児童合唱のための組曲が次々と発表された。

3. 地方のNHK 児童合唱団の活動

(1) 現在活動を行っている各地域のNHK 児童合唱団

NHK 児童合唱団の現在の状況は以下の通りである。

- ・現在活動中の団体：10（NHK 東京児童合唱団を含む）
- ・活動休止または解散した団体：9
- ・独立・改名して活動中の団体：3

本項においては、各地域の放送児童合唱団9団体について、創立もしくは「現在の団名」で活動を開始した時期の順に報告する。報告に当たっては、それぞれの団の特徴的な歴史や活動を軸とし、それによって各地域の放送児童合唱団の活動を概観する。団体数、

創立年については、解釈の違いなどもあり今後変動する可能性もある。

①NHK 鶴岡児童合唱団と「音楽物語《泣いた赤おに》」

1946（昭和 21）年創立。NHK 鶴岡支局は、NHK 山形放送局の支局である。鶴岡放送局時代の名残として NHK 鶴岡児童合唱団が現在も活動している。²⁴⁾ NHK 鶴岡児童合唱団は、毎年定期演奏会で音楽物語の上演を恒例とし、上演の様子はユーチューブで公開されている。²⁵⁾

『音楽物語《泣いた赤おに》』²⁶⁾は、原作・浜田廣助、作詞・作曲横山裕美子によるもので、登場人物によるソロや、同声二部合唱による 6 曲で構成されている。児童合唱団が「音楽物語」を上演することには、次のような意義があると考えられる。

- ・役割を演じ、歌うので、一人ひとりの個性を生かすことができる。
- ・合唱だけではなく、総合的音楽活動として観客に披露することができる。
- ・毎年の定期演奏会で演目を変えながら継続して上演することにより、音楽的・演劇的体験と技術が、世代を超えて受け継がれる。

児童合唱団は、それぞれ「愛唱歌」と呼ばれるレパートリーを持っているが、その中に「音楽物語」というジャンルがあるのは、その合唱団の個性であり、強みである。

現在、NHK 山形放送局において「NHK 山形児童合唱団」は活動していないが、かつては存在していた。作曲家服部公一は、1933（昭和 8）年に山形市で生まれた。学生時代からアマチュアの音楽家として活動し、中田喜直・山田耕筰・團伊玖磨などの知遇を得て、学習院大学文学部 4 年の時に NHK のオーディションに合格した。作曲家として活動を始めたが、山形放送局で放送児童合唱団に関わる仕事をしていたという。服部公一が 20 歳頃のことなので、1953（昭和 28）年当時は「NHK 山形放送児童合唱団」が活動していたと推測される。²⁷⁾

②NHK 奈良児童合唱団と「海外演奏旅行の成果」

1954（昭和 29）年創立。これまでに 16 回の海外演奏旅行を実施して各国でとりわけアカペラ合唱曲に高い評価を得ている。国際的な合唱コンクールにも参加し、多くの受賞歴がある。2005（平成 17）年には、スイスのモントルー国際合唱フェスティヴァルでディプロマ・エクセレントを獲得した。2007（平成 19）年春には、ベルギー、ポーランドを歴訪し、両国の合唱団と友好を深めた。幅広い年齢層で構成され、団員同士兄弟姉妹のような絆で結ばれ、協調性、忍耐力、情操豊かな人間形成を目標に活躍している。²⁸⁾ 海外旅行によって次のような成果が得られると考えられる。

- ・言語、環境、生活習慣などの異文化を理解する体験活動となる。
- ・訪問国の歴史や伝統に直接触れて理解を深めることができる。
- ・限られた時間の中で演奏活動や交流など多くのことを体験できる。
- ・訪問国の文化や言語に興味や関心が高まる

児童合唱団が海外演奏旅行を計画するにあたっては事前の準備に多くの労が求められる。演奏曲の練習はいうに及ばず、演奏会の開催、児童・生徒の健康管理、交流活

動など、準備・計画の段階から保護者をはじめとする多く人々の協力が必要である。多くの支援や協力があって海外演奏旅行は実現される。それらの積み重ねによる海外演奏旅行の体験は児童・生徒のその後の成長に生かされると考えられる。

③NHK 仙台少年少女合唱隊と「南材木町小学校の実践」

1959（昭和 34）年創立。NHK 仙台少年少女合唱隊の現在の指揮者大泉勉は、「仙台ユネスコ協会に少年少女合唱団を作る機運が高まり、東京少年少女合唱隊を範として（この経緯から「仙台少年少女合唱隊」と名付けられた）仙台少年合唱隊と仙台少女合唱隊が組織された。どちらの隊も 100 名を超える規模で発足した。その後、仙台ユネスコ協会から独立し、仙台少年少女合唱隊として活動している」²⁹⁾と記述している。2005（平成 17）年に NHK 仙台少年少女合唱隊と改称して現在に至っている。

一方、嶋田由美は、「仙台放送児童合唱団は 1946（昭和 21）年初頭に組織され、ラジオ番組に出演すると同時に、後に「東北うたの本」と呼ばれるようになる新しい子どもの歌づくりも本格化される」と記述している。³⁰⁾「仙台放送児童合唱団」も「NHK 仙台少年少女合唱隊」も、共に NHK 仙台放送局とかわりながら活動をしてきたが、別団体の可能性もあると考えられる。「仙台放送児童合唱団」の現在は、現時点では不明である。

1952（昭和 27）年から 1954（昭和 29）年までの 3 カ年間、文部省は初等教育音楽科実験学校として仙台市立南材木町小学校を指定した。この研究は、児童発声の実験的研究をもとにして小学校における音楽科の指導を効果的にすることを狙ったもので、その研究成果は、《初等教育研究資料第 XIV 集『頭声発声指導の研究』音楽科実験学校の研究報告（2）（昭和 31 年 7 月 20 日初版発行文部省）》としてまとめられた。

1932（昭和 7）年に開始された「児童唱歌コンクール（現在の NHK 全国学校音楽コンクール）」においては、第 1 回、第 2 回大会の東二番丁尋常小学校、第 3 回、第 4 回、第 5 回、第 7 回、第 8 回の南材木町小学校、第 19 回大会の連坊小路小学校など、仙台の小学校が最優秀校に選ばれている。昭和の初めから児童合唱の実践がなされており、実験校としての成果は全国コンクールにも反映されている。このような歴史が現在も「児童合唱文化」を育て、着実な児童合唱活動が継続される土壌となっているのではないかと推測される。

2021（令和 3）年 12 月 5 日（日）、コロナ感染予防に細心の注意を払いながら、NHK 仙台少年少女合唱隊第 62 回定期演奏会が日立システムズホール仙台シアターホールにおいて開催された。

（画像①）³¹⁾



④NHK 広島児童合唱団と「平和への祈り」

1961（昭和 36）年創立。コンセプトに「歌声を通して平和の発信や国際交流を図る」とあるように、「平和への祈り」を発信することを合唱団活動の目的の一つとしている。演奏曲目に平和へのメッセージが現れており、NHK 広島児童合唱団は、次のようなレパートリーを持っている。

- ・折鶴 作詞・作曲 梅原司平
- ・アオギリのうた 作詞・作曲 森光七彩
- ・青い空は 作詞 小森香子 作曲 大西進
- ・広島平和のうた 1947（昭和 22）年 8 月 6 日制定
作詞 重園賛雄 作曲 山本秀
- ・空に咲く花 作詞 丸山陽子 作曲 田鹿祐一

（画像②）³²⁾



《広島平和のうた》は、毎年 8 月 6 日開催の広島平和記念式典で演奏されている。いずれも平和へのメッセージが込められている曲であり、NHK 広島児童合唱団は、様々な演奏会でこれらを演奏している。広島の合唱団ならではのレパートリーであり、演奏活動によって「平和への祈り」を体現した合唱団活動であると言える。

⑤NHK 鹿児島児童合唱団と「テルツ少年合唱団の来日演奏会」

2004（平成 16）年創立。地域音楽文化への貢献と青少年の健全育成を期して結成された。³⁴⁾ 毎年 3 月に定期コンサートを実施している。

（画像③）³³⁾

2013（平成 25）年にテルツ少年合唱団と共演している。テルツ少年合唱団は、1956（昭和 31）年、南ドイツのバート・テルツで、G・シュミット=ガーデンによって設立された。歴史は浅いが、宗教曲をはじめとし、芸術音楽、ドイツの民族音楽など幅広いレパートリーを持ち、ヨーロッパ屈指の少年合唱団である。2013（平成 25）年の日本公演では、8 月 3 日（土）鹿児島宝山ホール、8 月 8 日（木）杉並公会堂、8 月 9 日（金）みなとみらいホールの 3 会場で演奏会を行っている。このうち日本の児童合唱団が共演しているのは鹿児島会場においてのみである。海外からの少年合唱団を受け入れ、共演することができる、地元の合唱団としての力強い基盤をもっていると言える。海外の団体を受け入れることの意義は次のようなことである。



- ・国際交流の相手国の言語や文化に興味や関心を持つことができるようになる。
- ・コミュニケーション能力の向上が期待できる。
- ・各国の異なる文化や国際的な価値観を学ぶことができる。 など

招聘合唱団との共演は、自身の演奏を振り返るきっかけにもなると考えられる。

⑥NHK 水戸児童合唱団と「地域連携の在り方」

2005（平成 17）年創立。3 月に茨城県域デジタル放送開始を記念して設立された。合唱活動並びに放送番組への出演、及び各種イベントへの出演を通して、健全な児童の育成・教育を図ると共に、茨城県の児童合唱及び、児童文化の発展向上に努めることを目的としている。³⁵⁾

水戸児童合唱団の創立以来の活動記録を分析すると、地域のイベントに定期的に出演していることが読み取れる。³⁶⁾児童合唱団にとって地域との連携が重要であることを提示している良い例である。地域との連携の意義は、次のようなことと考えられる。

- ・子どもたちの成長の段階に「児童合唱団」の存在があり、社会教育団体として青少年の健全育成の一端を担っている。
- ・地域の文化活動の中に溶け込み、地域の人々に好まれ、応援されることは、新たな入団希望者の増加に繋がる。新入団員によって合唱団員数は毎年一定数保たれ、活発な活動を継続することができる。

地域との連携が良い方向へ向かうことにより、地域の音楽文化の活性化に寄与すると共に、児童合唱団も安定した活動を行うことができる。

⑦NHK 長崎児童合唱団と「オペラ《沈黙》」

2004（平成 16）年創立。

（画像④）³⁷⁾

オペラ《沈黙》は、松村禎三が遠藤周作の歴史小説『沈黙』を題材として作曲した。1980（昭和 55）年にサントリー音楽財団から松村に委嘱が行なわれた。松村は台本も自ら執筆した。1993（平成 5）年の完成までに、13 年を要している。

1993（平成 5）年 11 月 4 日に日生劇場において文化庁芸術活動特別推進事業の一環として、若杉弘指揮、鈴木敬介の演出により初演された。この時、児童合唱は「ひばり児童合唱団」が担当している。2012 年に、新制作として下野竜也指揮により上演された。この時の児童合唱は「世田谷ジュニア合唱団」であった。2015（平成 27）年 6 月に新国立劇場での再演が予定され、それに先立ち、同年 2 月



に長崎に於いて演奏会形式での公演が開催されることとなった。この時に、NHK 長崎児童合唱団が出演している。

オペラ「沈黙」＜演奏会形式＞長崎公演
日時：2015（平成 27）年 2 月 15 日（日）
会場：長崎ブリックホール 大ホール
主催：長崎県

（公財）新国立劇場運営財団

地域の歴史や文化を題材とした作品に、その地域の児童合唱団が出演することの意義は、以下のようなことと考えられる。

- ・合唱活動を通して郷土の歴史や文化に興味や関心を持つ。
- ・郷土の先人と文化に誇りを持ち、郷土を愛する心を育てる。



長崎に限らず、いずれの地域においても、それぞれの地域ならではの歴史や音楽文化がある。そのような機会への出演に関して共通して言えることである。

⑧NHK 熊本児童合唱団と岩津範和

2005（平成 17）年創立。前身となる NHK 熊本児童合唱団は、1947（昭和 22）年、GK 子供唱歌隊として発足した。1968（昭和 43）年に熊本児童合唱団と改名し、2005（平成 17）年 1 月より「NHK 熊本児童合唱団」として活動している。

「GK 子供唱歌隊」³⁸⁾を創設したのが岩津範和である。GK というのは JOGK 熊本放送局（昭和 3 年 6 月 16 日開局）からとった名称で、ラジオ放送のために結成された子どもの合唱団であった。岩津範和は、小・高校の音楽教師として学校内外での合唱指導を行い、³⁹⁾合唱コンクール・音楽コンクールの審査員などを務めた。指導に携わった合唱団体は子どもから大人までと多岐にわたり、熊本の合唱文化を牽引した。

我が国の「児童合唱団」の指導は、岩津のような熱意ある音楽教師によって行われている例が多い。岩津は、その先達であると言える。2018（平成 30）年 5 月に「第 2 回子ども芸術未来賞」を受賞している。我が国において、この時代に児童合唱が盛んになっていった背景には、弛まぬ情熱をもって子どもたちを育てた地域の音楽教育家たちの存在が大きかった。

⑨NHK 福岡児童合唱団 MIRAI と「どんたく広場での演奏」

2005（平成 17）年創立。4 月に NHK 福岡放送局開局 75 周年を記念して発足した。NHK 福岡放送局や地域のイベントなどで歌声を披露している。⁴⁰⁾

毎年約 210 万人が訪れる「博多どんたく」⁴¹⁾は、約 830 年前の慶行事「博多松囃子」を博多町人が発展させたもので、毎年 5 月 3、4 日の 2 日間をかけて行われる。

「博多松囃子」は 2020（令和 2）年に国重要無形民俗文化財に指定されている。

市内約 30 カ所には「どんたく広場」などのイベント会場が設置され、NHK 福岡児童合唱団は、どんたく広場に出演することを恒例としていた。2021（令和 3）年の第 60 回、2020（令和 2）年の第 59 回「博多どんたく港まつり」はコロナ禍のため中止されたが、地域の伝統行事に児童合唱団が関わることには次のような意義があると考えられる。

- ・ 伝統文化は、その地域の歴史や特性を踏まえて構築されている。人と人のつながりや世代間交流といった価値を持ち、時代を超えて継承される。地域の伝統行事に参加することは、地域社会の一員としての役割を自覚すると同時に、郷土愛を育む良い機会となる。
- ・ 年に 1 度の伝統行事への参加は、その行事ならではの季節の訪れを体感すると共に、児童・生徒の立場で地域の活性化に寄与することができる。

近年はコロナ感染防止のため、このような伝統行事が各地で中止の止むなきに至っていると推測される。各地域での音楽的文化活動の全面再開が望まれる。

各地の NHK 児童合唱団が地域に根ざした特色ある活動を展開していることを窺い知ることができる。いずれの児童合唱団も上記のほか、年間計画に即した、定期演奏会をはじめとする地域色豊かな多彩な活動を行っていることはいうまでもない。

（2）改名して活動している児童合唱団

①静岡児童合唱団

1943（昭和 18）年に戸崎舜裕により、「音楽青葉会・静岡児童合唱団」が創設された。音楽を軸とした幼児教育を目指して設立された、青葉ヶ丘幼稚園に併設していた。NHK ラジオ番組で活動を始めた。1956（昭和 31）年に戸崎裕子が後継者となり、1970（昭和 45）年 NHK より独立し、「静岡児童合唱団」と改名された。

②和歌山児童合唱団

1958（昭和 33）年に NHK 和歌山放送児童合唱団として発足した。1966（昭和 41）年に NHK から独立して「和歌山児童合唱団」と改名した。2021 年 4 月 25 日第 63 回和歌山児童合唱団定期演奏会、12 月 28 日「和歌山児童合唱団コンサート in 湯浅」、12 月 5 日「フェスタルーチェ in 和歌山マリーナシティ」演奏会などの活動を行っている。

③大津児童合唱団

1953（昭和 28）年に NHK 大津放送児童合唱団として発足した。NHK の機構改革により「大津児童合唱団」と改名して活動している。

（3）かつて NHK 児童合唱団として活動していた団体

かつては各中央放送局に児童合唱団があり、地域放送に関わる演奏活動を行っていた。本項では文献やウェブサイトの記載から一時期は活動していたことが推測される団体につ

いて報告する。

①NHK 青森放送児童合唱団

- ・1946（昭和 21）年、土田正雄の指揮により、青森放送児童合唱団が設立された。
 - ・1964（昭和 39）年、小倉尚継の指導により、NHK 青森児童合唱団が発足した。NHK の中央集権化に伴い 1969（昭和 44）年に解散した。
- とあり、活動の足跡がみられる。⁴²⁾

②NHK 弘前放送児童合唱団

木村弦三（1904～1978）が、1956（昭和 31）年以降 NHK 弘前放送児童合唱団に津軽民謡や童歌をもとに編曲した作品を数多く提供した。⁴³⁾との記述がある。

③NHK 津放送児童合唱団

三重ヴォークスボーナ市民合唱団の第 4 回演奏会が、1957（昭和 32）年に開催された。この演奏会に、NHK 津放送児童合唱団（伊東功指揮）が賛助出演した。児童合唱団は、1949（昭和 24）年 10 月に NHK 津放送子供唱歌隊として発足、1953（昭和 28）年 4 月に、津放送児童合唱団と改称し、この年の入団者を一期生としている⁴⁴⁾、と記述されている。

④NHK 大阪放送児童合唱団

NHK 大阪放送児童合唱団は、「みんなのうた」で《さっさか大阪》作詞：阪田寛夫／作曲：南安雄（初回放送月 1969（昭和 44）年 6 月～7 月）や《海見えるまで》作詞：港野喜代子／作曲：南安雄（初回放送月 1969（昭和 44）年 2 月～3 月）を演奏しており、この当時 NHK 大阪放送児童合唱団が活動していたことを窺い知ることができる。⁴⁵⁾

⑤NHK 神戸放送児童合唱団

声楽家水澤節子が、歌の道に進んだきっかけは、子どもの頃から歌が大好きで、週に 1 回、NHK 神戸放送児童合唱団に通い、子どもオペラ団にも所属、部活はコーラス部、とにかくずっと歌っていた、という記述があり。この時期 NHK 神戸放送児童合唱団が活動していたことを窺い知ることができる。⁴⁶⁾

⑥NHK 鳥取放送児童合唱団

小泉恵大は、1949（昭和 24）年から NHK 鳥取放送児童合唱団と鳥取放送サロンアンサンブルの指揮者となり、作曲や編曲を数多く手がける。「音楽嗜好についての教育上の実験」という論文のほか、合唱組曲「鳥取砂丘叙情」、放送オペレッタ「因幡の白うさぎ」、「鳥取市民体操音楽」等の作品があり、また、県内の小・中・高等学校の校歌 72 曲を作曲している、との記述がある。⁴⁷⁾

NHK 高松放送児童合唱団、NHK 大分児童合唱団、NHK 帯広少年少女合唱団なども活動していたと考えられるが、現在の時点で資料を入手することができなかった。本項に関する更なる調査は今後の課題としたい。

4. 全国各地に創立された児童合唱団

(1) 地方の少年少女合唱団の活性化

1952（昭和 27）年当時の我が国には、「児童合唱団」、「少年少女合唱団」の名称を持つ団体は殆どなかった。1955（昭和 30）年にウィーン少年合唱団が初来日し、少年合唱団の存在が注目を集めた。各地で少年合唱団や少年少女合唱団が設立された。

1955（昭和 30）年のウィーン少年合唱団初来日は、我が国の音楽関係者に大きな影響を与えた。「日本にもウィーン少年合唱団のような歌声を」の願いのもと、多くの少年合唱団が結成された。少年少女合唱団運動が活発になり始め、その後、全国で 50 あまりの合唱団が誕生した。ウィーン少年合唱団のように美しい声を持った合唱団作りを目指したいというのが当時の人たちの合言葉だった。⁴⁸⁾

このような状況の中で日本の各地に誕生した数多くの児童合唱団が活動を活性化させていく中で、全日本少年少女合唱連盟が創立された。

(2) 全日本少年少女合唱連盟

1957（昭和 32）年に第 1 回全日本少年少女合唱連盟創立演奏会が開催された。その後、東日本少年少女合唱連盟や西日本少年少女合唱連盟の活動が成長、発展し、一時は多数の連盟加入団体を擁して活発な活動を行った。

1968（昭和 43）年に西日本少年少女合唱連盟第 1 回発表会が西宮市で開催された。東日本少年少女合唱連盟からは、代表として東京荒川少年少女合唱隊と沼津少年少女合唱団が友情出演をした。長谷川新一は次のような文を寄せている。

近年、我が国での児童合唱運動は急激に発展し、技術的にも、その質、量共に国際的な水準に近づいて来ました。省みれば、昭和 32 年、第 1 回全日本少年少女合唱連盟の創立演奏会が東京で行われてからもう 10 年も過ぎています。その間、全国各地に少年少女の合唱団体がゾクゾクと誕生。ついで東・西が相互に連絡を持ち、別個に少年少女合唱連盟が新しく発足、今日の立派なものに発展したわけです。⁴⁹⁾

西日本少年少女合唱連盟第 1 回発表会における出演団体は 14 団体である。本大会においては広島少年合唱隊が「組曲《ひろしま》」を、西宮少年合唱団が「組曲《月と良寛》」全曲を演奏している。⁵⁰⁾西日本少年少女合唱連盟の大会はその後、1981（昭和 56）年の第 14 回まで開催された。

1970（昭和 45）年の大阪万博では、東日本少年少女合唱連盟と西日本少年少女合唱連盟の合同出演などの交流があった。1981（昭和 56）年に両団体が合併して全日本少年少

女合唱連盟が発足した。翌 1982（昭和 57）年に全日本少年少女合唱連盟第 1 回高知大会が開催された。1997（平成 9）年からは全日本少年少女合唱祭と名称を改め、2019（平成 31）年第 38 回栗東大会まで継続して開催されたが、コロナ感染防止を考慮して 2020（令和 2）年、2021（令和 3）年度の大会は中止となっている。

全国の少年少女合唱団団体数を県別に紹介した「少年少女合唱団データベース」⁵¹⁾によると、少年少女合唱団の団体数は、2002（平成 14）年時点で 858 団体である。1983（昭和 58）年は 120 団体なので、概ね 20 年の間に 7 倍以上に増加している。だが、このデータベースは 2002 年以降更新されていない。

西日本少年少女合唱連盟加入団体数は、1964（昭和 39）年発足当時不明、19 年後の 1983（昭和 58）年は 62 団体、2017（平成 29）年は 42 団体となっている。⁵²⁾ 34 年間に 20 団体が何らかの事由で合唱連盟を脱退している。西日本少年少女合唱連盟主宰の大会・合唱祭への参加団体数と加入団体数をみる限り、我が国の児童合唱団団体数は減少していると言わざるをえない。1957（昭和 32）年の全日本少年少女合唱連盟の創立を一つの節目と考えたとき、60 年余の間に著しく増加した。全日本少年少女合唱連盟は現在も活動を継続しているが、少子化の影響なども大きく、加入団体数は減少の傾向にある。

「日本にある児童合唱団」⁵³⁾によると 2022（令和 4）年の現時点において 872 団体活動しているとされている。上記 2002（平成 14）年のデータと比較すると、ここ 20 年の間に微増している。解散や新設が繰り返されており、総団体数は、ほぼ横ばい状態にあるのではないかと推察される。衰退の途を辿っているのではないかと思われがちであるが、児童合唱には根強い人気があり、新たな児童合唱団が創立されていることが推察される。

IV 結論

1. NHK 児童合唱団の役割と意義

以上の調査により、次のような結論が導き出された。

- (1) 1955 年から 1965 年にかけて、テレビやラジオの子ども向け音楽番組は人気を集め、学校における教育音楽を補完していた。NHK 児童合唱団の活動は、番組を通して児童合唱の魅力を各地の合唱指導者や子どもたちに伝え、刺激を与えると共に活動活性化への道筋を示した。
- (2) 各地域の NHK 児童合唱団の活動は、その地域の音楽文化に寄与し、その地域の児童合唱団のモデルとなるような活動を行っている。
- (3) 各地域の NHK 児童合唱団は、それぞれの地の地域性を生かした特色ある活動を展開して、地域発の文化を発信している。
- (4) 各地域の NHK 児童合唱団が演奏する曲目は、宗教曲、小・中・高の合唱曲、童謡・唱歌、子どもの歌、音楽劇、ミュージカル、オペラなど多岐にわたる。我が国のアマ

チュア音楽文化を児童・生徒の立場で支えている。

(5) 社会教育の場として、公教育とは異なる集団生活の場として、児童・生徒の社会性を育むと同時に音楽的素養を高め、芸術性の高い音楽活動を行っている。少子化により兄妹姉妹の体験がない子どもにとって、異年齢集団の体験は疑似的兄妹姉妹体験を担う役割を持っている。

児童合唱団発展の背景には我が国の成人合唱活動の繁栄があることを見逃すことはできない。東京放送合唱団は 1944（昭和 19）年に発足し、大阪、名古屋、仙台、広島、札幌などでも放送合唱団は独自の活動を展開した。⁵⁴⁾ 青森県音楽資料保存協会の記録には、「1948（昭和 23）年 5 月 22 日、青森放送児童合唱団、青森放送劇団、青森放送子ども会、青森放送室内楽団と共に青森放送合唱団も NHK 青森放送局の正式な専属団体となる」とある。⁵⁵⁾ また、全日本合唱連盟加盟団体数は 1948（昭和 23）年に 200 団体であったものが 2010（平成 22）年には 5225 団体となっている。⁵⁶⁾ 合唱組曲《遠足》の項で記述したように児童合唱のための作品がなかった当時、児童合唱団は女声三部合唱の楽譜を使用していた。児童合唱の発展は、成人合唱活動の発展と共にあった。

2. 放送文化との関わり

1953（昭和 28）年 2 月 1 日にテレビジョン本放送が開始された。盛り場や駅、公園などには街頭テレビが設置され、放送開始から 5 年後の 1958 年には受信契約が 100 万に達した。1959（昭和 34）年には白黒受像機の普及が 200 万台を超え、1964（昭和 39）年に所帯普及率 90%に達した。1960（昭和 35）年からカラーテレビ本放送が開始された。

放送文化の発展と共に、「みんなのうた」（1961～現在）、「たのしいうた」（1963～1964）、「歌のメリーゴーラウンド」（1964～1968）、「歌はともだち」（1968～1978）などの子ども向け音楽番組が放送されるようになり、その中で児童合唱が必要とされた。音声や映像の中で活躍する児童合唱団の姿を見聴きした児童・生徒や音楽教育家は刺激を受け、合唱活動の魅力を知った。地方の児童合唱団への入団希望者は増加し、合唱団活動は活性化され、熱意ある指導者によって団体数が増加し、児童合唱連盟が設立された。放送番組の多彩な展開に伴い、演奏技術も向上した。数多くの音楽作品が新譜として出版され、次々と電波に乗って放送された。モデル的な演奏を各地域の児童合唱団が視聴し、新曲もまた全国に広まっていくという、良い循環をしていた。我が国の児童合唱文化形成の過程において放送文化が大きなバックグラウンドになっていたことは明らかである。

だが、近年、前述の「子ども向け音楽番組」の中で現在も継続して放送されているのは「おかあさんといっしょ」と「みんなのうた」のみである。子ども向け音楽番組は少なくなり、アニメの主題歌も児童合唱団ではなく成人歌手が歌っている例が増えている。現在は一つの転換期に来ていると言える。

V 終わりに

日本放送協会放送局は、東京都を管轄する放送センター（首都圏局）を1放送局として含め、現在54放送局が存在している。組織改正などもあり流動的な数とも言えるが、54局のうち10局で児童合唱団が活動している。現在活動していないNHK児童合唱団を含めると、概ね過半数の局が児童合唱団を擁していたと言える。最も多かった時期は、我が国の児童合唱団が活性化していた時代と重なると考えられる。

NHK放送児童合唱団は、NHKの組織改訂のため、団名変更があったり、その中で解散したり、独立したりという団体もあるが、我が国の児童合唱活動の一モデルとなり、戦後の児童合唱団発展を牽引して来た。モデルがあるからこそ目標が生まれ、我が国の数多くの児童合唱団は目標とするところを内包しながら、切磋琢磨しつつ成長してきた。

だが、ここ数年のコロナ禍のため、学校の音楽科授業はもとより、社会教育の現場である児童合唱団における合唱活動は、大きな制約を受けた。現在も活動を休止したり、少人数の交代制にして練習を行ったり、歌い易いマスクを探したり、オンライン練習を取り入れたりなど、模索を繰り返しながら活動を継続している。

活動休止、解散の止むなきに至った団体もある。要因の一つとして、活動休止に伴い、団員募集ができなかったということがあげられる。団員は年月の経過と共に成長、進級し、児童合唱団卒団の年齢に達する。後続の新入団員を迎えることができない状況が、団の存続に大きく関わることは想像に難くない。

合唱団活動には「その時一回限りの演奏活動」のために結成される場合がある。各合唱団からの代表の集合体であったり、そのための募集をしたりして結成、演奏会が終わった段階で解散される。そのような場合には、活動内容に即した「〇〇児童合唱団」といった団体名がつけられた。継続した活動をしている団体は、ある程度の活動記録が残されているが、単発活動のための団体は後追い調査が難しい。各地域のNHK児童合唱団の中で活動休止や解散をした団体についても同様のことが言える。本研究においては、一時期NHK放送児童合唱団として活動していたが、活動休止・解散などのため現在は存在していない団体についての調査を深めることができなかった。今後の課題としたい。

【主要参考文献】

- ・『合唱事典』（1977）音楽之友社
- ・『新訂合唱事典』（1983）音楽之友社
- ・『日本童謡事典』（2006）東京堂出版
- ・『赤い鳥事典』（2018）赤い鳥事典編集委員会／編・柏書房
- ・秋山正美編著（1992）『ラジオが語る子どもたちの昭和史1，2，3』大空社
- ・小島美子（2004）『日本童謡音楽史』第一書房
- ・小島美子（1997）『音楽からみた日本人』日本放送出版協会（NHKライブラリー）
- ・安藤美紀男（1977）『児童文化』朝倉書店

- ・池田小百合（2003）『子どもたちに伝えたい日本の童謡』実業之日本社
- ・井手口彰典（2018）『童謡の百年』筑摩選書
- ・井上英二（2018）『童謡百年史－童謡歌手がいた時代』論創社
- ・今田絵里香（2007）『「少女」の社会史』勁草書房
- ・長田暁二（1994）『童謡歌手からみた日本童謡史』大月書店
- ・海沼実（2009）『海沼實の生涯』ノースランド出版
- ・上笙一郎（1976）『日本の児童文化』国土社
- ・河合隼雄／阪田寛夫／谷川俊太郎／池田直樹（2002）『声の力－歌・語り・子ども』岩波書店
- ・河口道朗（1991）『音楽教育の理論と歴史』音楽之友社
- ・河西秀哉（2016）『うたごえの戦後史』人文書院
- ・金田一春彦（1978）『童謡・唱歌の世界』主婦の友社
- ・阪田寛夫（1986）『童謡でてこい』河出書房新社
- ・阪田寛夫（1995）『どれみそら・書いて創って歌って聴いて』河出書房新社
- ・佐野美津男（1965）『現代にとって児童文化とは何か』三一書房
- ・柴田克彦（2017）『山本直純と小澤征爾』朝日新聞出版
- ・周東美材（2015）『童謡の近代－メディアの変容と子ども文化』岩波現代全書
- ・園部三郎／山住正巳（1962）『日本の子どもの歌－歴史と展望』岩波新書
- ・長木誠司（2010）『戦後の音楽－芸術音楽のポリティクスとポエティクス』作品社
- ・永澄憲史ほか（2018）『唱歌の社会史－なつかしさとあやうさとー』メディアアイランド
- ・戸ノ下達也／長木誠司（2008）『総力戦と音楽文化－音と声の戦争』青弓社
- ・戸ノ下達也／横山琢哉編著（2011）『日本の合唱史』青弓社
- ・戸ノ下達也（2016）『〈戦後〉の音楽文化』青弓社
- ・畑中圭一（1990）『童謡論の系譜』東京書籍
- ・畑中圭一（2007）『日本の童謡－誕生から九〇年の歩み』平凡社
- ・古橋富士夫監修（2015）『必ず役立つ合唱の本・日本語作品編』株式会社ヤマハミュージックメディア
- ・東京少年少女合唱隊 LC 基金（2001）『歌おう東京少年少女合唱隊 50 年の挑戦』朝日新聞社
- ・NHK 取材班・編（2004）『その時歴史が動いた 30』KTC 中央出版

【昭和館図書室】

- ・『放送 80 年 それはラジオから始まった』（699/N71 開架書棚）
- ・『日本放送史 上・下』（699/N71/1, 2 閉架書庫）
- ・『ラジオ年鑑』（699/N69 閉架書庫）
- ・『ラジオが語る子どもたちの昭和史』（699/Sh97 開架書棚）
- ・『子どもの昭和史 昭和十年～二十年』（210. 7/T33/1935-45 開架書棚）

【CD】

- ・周東美材監修／解説（2018）「童謡百年の歩み～メディアの変容と子ども文化」日本コロムビア
- ・「《児童合唱と管弦楽のための組曲《えんそく》》」日本コロムビア COCE-35393 オリジナル版：1970 年発売の再発売（2009）指揮山本直純管弦楽新室内楽協会合唱NHK東京児童合唱団（元東京放送児童合唱団指導古橋富士雄）（CD）

【主要参考論文】

- ・井手口彰典（2015）「大正期から現在までの童謡をめぐる社会的イメージの変遷」ソシオロジ 60(2), 3-20 社会学研究会
- ・井手口彰典（2016）「日本の児童童謡歌手の特徴と戦後におけるその変質」応用社会学研究 No. 58. pp. 37-52.
- ・国府華子（2018）「熊本県における昭和 20 年代の合唱指導—合唱指導者としての岩津範一—」愛知教育大学研究報告. 芸術・保健体育・家政・技術科学・創作編 67-1
- ・嶋田由美（2005）「「東北うたの本」と仙台放送児童合唱団—戦後の児童文化形成と学校音楽教育における意義」和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要 No. 15.
- ・田崎直美（2012）「フランス・ラジオ放送児童合唱団「メトリーズ」la Maîtrise de la Radiodiffusion Française:—設立初期（1945-49）の活動内容とその意義について—」お茶の水女子大学人文科学研究 No. 8. pp. 81-94.
- ・安田寛／嶋田由美／小川容子（2006）「洋楽導入による異文化適応としての日本人の歌声の変化」和歌山大学紀要人文科学 56, pp. 17-23.

【主要参考ウェブサイト】

- ・NHK 放送史 2021. 6. 6. 取得
<https://www.nhk.or.jp/archives/search/special/comic/>
- ・NHK 東京児童合唱団 2021. 6. 6. 取得
<https://www.nji-tokyo.jp/>

-
- 1) 品川三郎（1955）『児童発声』音楽之友社
文部省（1956）『頭声発声指導の研究—仙台市立南材木町小学校の実践』教育出版 など
 - 2) 「童謡」という言葉の概念については、井手口彰典（2015）「大正期から現在までの童謡をめぐる社会的イメージの変遷」に詳述されている。本稿においては一般的な広義の意味で扱う。
 - 3) （2005）『日本童謡事典』東京堂出版、上笙一郎編、pp. 186-187.
 - 4) 厳密に言えば、「合唱」は複数の声部を複数の人数で歌うことを指すが、一般的には複数人で声を合わせて歌うことを「合唱」と呼ぶ場合が多い。ここでは一般的な表現に従う。
 - 5) NHK 取材班編『その時歴史が動いた』（2004）KTC 中央出版、pp. 206-251.
 - 6) 赤い鳥事典編集委員会（2018）『「赤い鳥」事典』柏書房、p. 45.
 - 7) 同上、pp. 45-46.
 - 8) 井手口彰典（2018）『童謡の百年』筑摩選書、pp. 60-61.
 - 9) 井上英二（2018）『童謡百年史—童謡歌手がいた時代』論創社、p. 160.
 - 10) 皆川おさむ（2015）『太陽がくれた歌声』
 - 11) 畑中圭一（2007）『日本の童謡：誕生から九〇年の歩み』平凡社、p. 286.

-
- 12) 長田暁二 (1994) 『童謡歌手からみた日本童謡史』 大月書店、pp. 58-59.
- 13) 同上、pp. 59-60.
- 14) 河合隼雄・阪田寛夫・谷川俊太郎・池田直樹 (2002) 『声の力ー歌・語り・子ども』 岩波書店、p. 101.
- 15) <https://www.nji-tokyo.jp/profile/2021.12.27>. 取得
- 16) 現代日本児童合唱名曲選『子供の情景・えんそく』(1973 年録音) 阪田寛夫：作詞・山本直純：作曲・合唱：東京放送児童合唱団・指揮：古橋富士雄・ピアノ：田中瑤子 CBS/SONY INC. レコード解説：後藤田純生「作品と合唱団のこと」
- 17) 本稿においては、《えんそく》と《遠足》が混在している。1964 年初演のオープンリールは《遠足》、1983 年出版の山本直純選集 1 では《遠足》、1973 年録音のレコードは《えんそく》、1983 年の楽譜草稿は《遠足》、2007 年出版の楽譜は《えんそく》、2009 年発行の CD は《えんそく》と表記されている。本文は引用文献に準拠した。
- 18) 井上博子 (2019) 「我が国の児童合唱文化形成に関する一考察ー児童合唱組曲出版数の推移を通してー」 総合文化学会論叢第 10 号 2019. 5. 1.
- 19) 「山本直純合唱曲選集 1」(1983) 音楽之友社、前書き
- 20) 児童合唱と管弦楽のための組曲『えんそく』山本直純／NHK 東京放送児童合唱団 2009：日本コロムビア (株)
- 21) 児童合唱と管弦楽のための組曲『えんそく』日本コロムビア COCE-35393 オリジナル版：1970 年発売の再発売 (2009) 指揮山本直純管弦楽新室内楽協会合唱 NHK 東京児童合唱団 (元東京放送児童合唱団指導古橋富士雄)、CD 解説書 p. 7.
- 22) 柴田克彦 (2017) 『山本直純と小澤征爾』 朝日新聞出版、p. 66.
- 23) 「山本直純合唱曲選集 1」(1983) 音楽之友社、前書き
- 24) <https://www.gakushubunka.jp/yugakukan/group/group0043/>
- 25) <https://www.youtube.com/watch?v=TZe49kCW90c> 2021. 12. 27. 取得
- 26) <https://store.kyogei.co.jp/products/detail/1260>
- 27) 服部公一 (2021) 『童謡が輝いていた頃』 音楽之友社、p. 111.
- 28) <http://nhknarachild.web.fc2.com/2021.12.27>. 取得
- 29) https://sencla.com/blogs/category/2006/nhk_2006/ 2022. 2. 28. 取得
- 30) 嶋田由美 (2005) 「『東北うたの本』と仙台放送児童合唱団：戦後の児童文化育成と学校音楽教育における意義」 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要 No. 15.
- 31) <https://twitter.com/nhksendai/status/1474713380766502912> 2022. 3. 1. 取得
- 32) <https://pc.tamemap.net/personal/event/47926?locale=ja> 2022. 3. 1. 取得
- 33) <http://www.fbook.com/michi/6-8tol.html> 2022. 3. 1. 取得
- 34) <https://nhkkagoshimagido.jimdofree.com/> 2021. 12. 27. 取得
- 35) <http://www.nhk-mitocc.jp/> 2021. 12. 27. 取得
- 36) <http://www.nhk-mitocc.jp/archives/index.html> 2022. 2. 28 取得
- 37) <http://kyukyo.or.jp/cms/4476> 2022. 3. 1. 取得
- 38) 「JOGK」は NHK 熊本放送局のコールサイン。1925 (大正 14) 年に NHK ラジオ放送が開始されてから各地に放送局が開局されていた。原則として「J0*K」(*=A~Z) が順番に割り当てられた。
- 39) <http://nhk-kjg.com/about/> 2021. 12. 27. 取得
- 40) <https://www.nhk.or.jp/fukuoka/mirai/index.html> 2021. 12. 27. 取得
- 41) 「博多どんたく」は「松囃子」を起源とする 830 年余の歴史を持つ伝統行事。治承 3 (1179) 年に始まったとされている。オランダ語の Zondag (ゾンターク・休日) が語源と言われている。
- 42) <https://www.dontaku.fukunet.or.jp/about/origin> 2021. 12. 29. 取得
- 43) <http://www7a.biglobe.ne.jp/~amusic/un1304.html> 2021. 12. 29. 取得
- 44) <https://kotobank.jp/word/%E6%9C%A8%E6%9D%91%20%E5%BC%A6%E4%B8%89-1643641> 2021. 12. 29. 取得
- 45) <http://voxbona.seesaa.net/category/26082046-13.html> 2021. 12. 30. 取得
- 46) https://www.nhk.or.jp/minna/songs/MIN196906_02/ 2021. 12. 30. 取得
- 47) <http://kobe-kobeco.com/archives/3788> 2021. 12. 30. 取得
- 48) <https://www.pref.tottori.lg.jp/89656.htm> 2021. 12. 30. 取得
- 49) (1986) 《ライジングー少年合唱団ー天使たちのコンサート》 新書館 p. 36.
- 50) 1968. 3. 27. 西日本少年少女合唱連盟第 1 回発表会プログラム p. 2.
- 51) 同上、pp. 3-4.

-
- 51) <http://www.geocities.jp/webakky/kbsg/data/index.htm> 2022. 3. 1. 取得
- 52) 1983. 3. 27. 西日本少年少女合唱連盟演奏会プログラム
- 53) <http://www1.cncm.ne.jp/~hotei/chorus/boyschoir/choirlist.html> 2022. 3. 15. 取得
- 54) 戸ノ下達也／横山琢哉編著（2011）『日本の合唱史』青弓社、p. 83.
- 55) <http://www7a.biglobe.ne.jp/~amusic/un1304.html> 2022. 3. 1. 取得
- 56) 戸ノ下達也／横山琢哉編著（2011）『日本の合唱史』青弓社、p. 76.

[英文タイトル]

The development of children's choirs and their involvement in broadcasting culture-
Through the activities of NHK Broadcasting children's choir.

[INOUE, Hiroko・小田原短期大学保育学科特任教授、音楽教育学、児童文化学]